

第2回ホール等文化施設のあり方に関する検討委員会 議事録

日 時：令和4年10月21日（金）13時30分開会

場 所：鳥取市役所本庁舎7階第2委員会室

出席委員：張委員長、塩谷委員、河合委員、赤山委員、新委員、神部委員、棚橋委員

欠席委員：中山副委員長

事務局：高橋企画推進部長、文化交流課 福山課長、城市課長補佐、藤田
福井資産活用推進課長、西垣係長、須崎生涯学習・スポーツ課長
戸田政策企画課長

オブザーバーとして、教育福祉振興会生涯学習センター村上館長も同席

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議題

(1) 第1回議事概要について

(資料1について事務局より説明)

【委員】資料③の中で、文化センター、文化ホールの改修で工事期間があり、利用できない時期があった。この記載の稼働率は年間の数字か？

【事務局】8月までは利用できているので、8月までの利用の数字である。

(2) アンケートの実施について

(資料の2について事務局より説明。)

【委員長】文化芸術への携わり方等詳しく記入していただければ良い調査となる。

【委員】このアンケートは文化団体協議会も協力して、各66団体に協力いただいた。福祉文化会館、市民会館、文化ホール、文化センターは利用させてもらっている場所。老朽化して現在の施設は使い勝手が悪い。ぜひ新しい施設を作っていただきたいという希望は多いと思う。

【委員】自分の団体もアンケートに協力した。項目Q2とQ3に関しては、自由に書いていただきたいということで、記述式にしたということだが、もう少し具体的な項目があった方が書きやすかったという意見もあった。このアンケート自体は、文化施設のあり方を知ってもらえるという意味でとても効果があったと思う。

【委員】アンケートは5枚ずつの配布だったのか。

【事務局】1団体5枚ずつ渡している。(団体全部で330枚)。10/14時点で回収したのは、施設に常設のもの、イベントでの配布のもので合計132枚。鳥取市文化団体協議会へのアンケートに分かるような印はつけてない。アンケートの回収場所は、鳥取市文化団体協議会への提出も可能で、鳥取市文化交流課、市民会館、文化センター、福祉文化会館、わらべ館で回収も可能としている。

【委員】鳥取市文化団体協議会としては、3年前に当時67団体に対し、独自のアンケートを実施した。アンケートの結果は市長に報告した。市庁舎跡地に限らず、鳥取市に新しい施設をつくってほしいということで要望書として提出した。

【委員長】具体的な質問を設けていない場合は、答えにくい場合もあるが、自由記載から読み取れるようなものもあるのではないかと期待している。文化芸術活動のあり方を考えるというもので、改悪ではなく改善に向けてやることが大前提。例えば中心市街地の施設や地域ごとに担うべき機能、そして場所が足りない状況など総合的に見ていかないといけない。このようなとても初歩的な情報を、今回のこのアンケートから何か、見えてきたらとの期待がある。

【委員】施設の規模等々を決めていくのは難しいと思うが、鳥取市の方に考えていただきたい。どういう施設が必要でほしいのか、皆が自由に話をして鳥取市がまとめてくれたらよい。

【委員】前回見た3つの施設(市民会館・文化センター、国府町コミュニティセンター)をどうしていくのかを議論に入れた話をした方がよい。

【事務局】まずアンケートについては、先ほど資料2で説明した。すでに配り始めており、アンケートを配布したということをご報告した。資料2について、実施期間は10月1日から12月31日までで、配布をして回収をしている段階であり、内容についての取りまとめは途中である。そしてこの会の進め方として前回の委員会資料2に検討スケジュールとして表をつけている。前回はステップ1で、現状・課題を共有、それから施設見学をして現状を見ていただいた。本日は、ステップ2の段階。その前に鳥取市として全体の方向性を決めて、個々の施設について検討していただきたい。方向性がある程度固まったら、前回の委員会資料2のステップ3の個別の施設についてのお話に入りたいと思う。

【委員】10月14日までの締め切りで、鳥取市文化団体協議会に配布されたアンケートは、ホールなどを使う側の方のご意見が多いと思うが、自分も企画をする側なので、今後イベントの中で、このアンケートを取りたいがよいか。

【事務局】ぜひお願いしたい。市民が文化施設について何を望んでいるのか、より多くの意見をいただき本会でも参考にしたい。このアンケートは、委員の方々が考える上で参考になればとの趣旨。どちらかの方向に誘導するということはよくなく、あえて選択式ではなくほぼ記述式の中身にした。また、このアンケートを行うことによって、文化施設のあり方について検討しているということをご報告するという意味合いもあると思っている。より多くの方に書いていただきたい。このアンケートについては、10月から、今年の12月末までの期限にしているが、先行して鳥取市文化団体協議会に配布しており、うまく集まれば第一次集

計的にこの今日の委員会で、少しご紹介ができればという思いもあったので、鳥取市文化団体協議会には締め切りを R4 年 10 月 14 日にしていた。鳥取市文化団体協議会の方でも、もしまだ意見が言いたいという方がいたらアンケートへの回答をお願いしたい。その上に例えば公民館等より多くの意見をいただくために事務局としても動いていきたい。

【委員】9 団体の合唱祭をやるので、アンケートをぜひ置いてもらいたい。幅広い年代のからのご意見がもらえる。

【事務局】改めて配布可能な場所があったら、随時、事務局で対応したい。1 人でも多くの方の意見を拾って、この場で皆さんと共有したいという思い。

【委員】アンケートを行うのは良い。活動されている方の意見は多いと思うが、鑑賞される側の意見が聞いてみたい。今後鳥取に帰ってきたいと思い、思われるような文化施設にするためにはどうすればよいのか、直接若い方の意見が聞いてみたい。

【委員長】学生の協力を得ることは可能。

【事務局】事務局としてはこのアンケートを引き続き進めさせていただく。また学生の意見を集める方法を少し考えたい。改めて委員の方々にはご報告をさせていただく。

(3) ホール等文化施設のあり方に関する基本的な方向性

(資料 3 を事務局より説明)

【委員】既存施設で壊すのがもったいないというような施設もたくさんある。ものによっては、リニューアルして機能アップできるものもあると思う。

【事務局】なんでも新しくではなく、学校の空きスペースの活用など広い視野で検討すべきだと思う。それぞれの地域でいろんな施設があって、それぞれの目的で施設が建てられているが、個々の目的を、各施設で組み合わせるなど様々なケースがあると思うので、新しく作るだけではないということは、入れていくべきだと思う。

【委員】基本的に資料 3 の 7 までは必要。文化芸術に関することなので、このあり方の検討がどういう方向に向かうかということに対する将来への期待や楽しみが何か欲しいと思う。もう一つは、市文化施設のあり方ということが根本なので、ハードに関することが中心になっているけれど、やはりソフトに関することも重要である。特に文化機能の充実ということで、次世代のすぐれた芸術家や地域の文化芸術がその担い手の育成を図るということ、本物に触れるとそれに感化され向上心が培われるようなサポートも必要。

【委員】資料 3 についてわかりやすくまとまっている。この資料 3 の 7 ページにあるように、今後財源が減少することをまず頭に入れておかないといけない。現存の施設で重複している機能があるのは事実で、稼働率と併せて精査していかないといけない。現存施設の維持管理費もかかる。中央拠点には使い勝手のいい、皆さんから愛される、喜ばれるような新しい施設が欲しい。市民会館は多くの団体で利用する場合、控え室はなく、弁当を食べると

ころはないが、色々工夫しながら利用している。文化センターは小規模だが、控室など充実している。

【委員】普段、小学校等は施設を利用していない。アンケートについても、アンケートの利用者が対象者なので、普段使っていない人たちはなぜ使っていないのかという点も、稼働率や利用率を上げる点では、大事なことではないか。学習発表会など使いたい場面はあるが、コロナ禍なので人数制限や入れ替え制など工夫して行っている。広い場所が借りられたらよいが、そのような時にネックになるのは交通費。貸し切りバスは大変高く、なかなか使いつらい。歩いて行けるような場所だと利用しやすい。中心にある大きなホールであっても、例えばバスを出してくれるとか、施設を作ることも大事だが、使いやすくするという点では、そのアクセスも考えていただきたい。中央拠点とコミュニティセンターとは機能面で違う部分があるので分けて考えるべき。

【委員】資料3の基本的な方向性については賛成。3つの施設は非常に古い、何か1つ拠点になり、3つを統合したようなものを作る方向性を出した方がよいのではないかなと思う。規模としては、400人～500人程度の中規模程度の施設を考えた方がよいのではないかな。

【委員】資料3のホールと文化施設のあり方に関する基本的な方向性のこの資料に関しては、特に問題ない。コンサートをするにあたり、小さな子どもたちに聞いてもらいたいと思った時に、どうしてもその親の興味や関心が大きく影響していて、親に興味があれば、子どもたちに届けることができない。平等に、誰しも芸術に触れる機会を届けたいと思い、小学校等に出向いて公演を行っている。体育館を使うときに夏は本当に暑く、冬はかなり寒いような環境である。個人で学校とやりとりをするのは効率がとても悪いので、鳥取市と協力して市内の学校の方々が文化施設に来て演奏を聴いてもらう機会を作りたい。

【委員長】施設そのものだけではなく、それと関連したアクセシビリティの充実が必要。普段施設を利用しない人は行かないことに慣れてしまっているが、ネットワークや環境を良くすることによって関心を持って訪れることもあるかもしれない。そのように考えていくと、文化施設のあり方を考える際、魅力づくりと関連するような施設を作っていくときに、どこまで提案として入れるべきか、この7つの方向性にご意見いただいたり、或いは、統合する部分がないかなど次回以降ご意見いただきたい。

【事務局】基本的な方向性7つを示しているが、先ほど話が出たその施設ができることによってどういう波及効果がこの街に出てくるのかなども、要素としてはあると感じた。施設が出来ても使ってもらわなければ意味がないので、ハードとソフトの両方を検討しないといけない。特に次世代育成は非常に大事だと思っているので、学校が文化施設にもっと来てもらうにはどうしたらいいのかという仕組みもソフトの1つだと思う。使いやすさという部分においても、使ってもらえて街に効果が出るというところも考えながら進めていかなければいけない。市が建てて、市が直接運営することはない。運営者との連携は必要で、ソフトの1つとしてある。少し紹介するが、一昨年、地元の芸術家を応援しようということで、芸術家バンクを立ち上げ、約60人ぐらいの方に登録いただいている。その中で学校に

芸術家バンク登録者を派遣する事業を始めている。地元ですぐれた芸術家がいるのを、実際に子供たちにも知ってもらうのが目的である。先ほどのバスの話では、鳥取にしかない地域資源といえる鳥の劇場があり、ここもやはり子どもたちにどんどん見てもらいたいということで、実際に常設の劇場というのがせっかくあるので、劇場の現場を見て、空気を吸ってもらって、その中で本物の芸術を体験してもらおう。そのためにネックになるのは先ほど話にでたバス代だったが、市としても、鳥の劇場に対する謝礼とあわせて、そのバス代に対する補助もセットで予算を確保することができている。このようにハードとソフトをセットにしないといけない。今日いただいた意見を元にこの資料 3 を少し追加して皆さんにお示しする。

【委員】このあり方の方向性の 4 番目の市有以外の施設も含めた機能分担による効率化はこれが今後の話になっていくと思う。資料について、広域すぎて分からないので市有施設、それ以外の施設を中心市街地に集約したマップを作成してほしい。

【事務局】次回について、第 2 回の基本的方向性の修正版をお示しする。市民会館等の具体的な施設を掘り下げて皆さんに情報をお出しして一緒に考えていただきたい。また 1 月まで少し間があるので、各委員と個別に色々意見交換させていただいて、この委員会の場で皆さんと共有したいと思う。改めてご連絡させていただく。

4 その他

第 3 回検討委員会の日程については後日調整（令和 5 年 1 月 2 5 日（水）1 0 : 0 0 ～と後日連絡）